

# 国連新聞

私たちから世界へ

桐生市立中央中学校  
年高堂花恋松倉結  
H.29年10月22日

# 世界平和を求め



日本の国連活動  
3本柱  
① 平和と安全  
② 開発  
③ 人権

国連を通じて  
世界に  
貢献する日本

第二次世界大戦後の一九四五年。世界の平和と繁栄のためにアメリカのニユーヨークに国際連合がつくられました。日本は一九五六年に世界で八の番目の加盟国として国際連合に加盟しました。

日本は国連通常予算の九六八〇%を拠出しており、アメリカに次いで世界で第二位です。しかし、単に財政に力を使っているだけでは、貧困の撲滅や、感染症対策など様々な課題に取り組んでいけません。



国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)は、シリア、イラク、南スーダンなど世界中で家を追われた難民、国内避難民などを支援保護しています。水や食糧、毛布などの物資の配布や難民キャンプ等の提供、子供の保護など、最前線で援助活動を行っています。

今、この世界には、六五〇万人の難民がいます。そのうち、約六〇万人は、一年間に約六〇万人の子供達が五歳になる前に命を失っています。その問題を解決するためにユニセフが取り組んでいます。

## unicef 国際連合国際児童緊急基金

私達の〇円でできること  
1円...病気にかりにくくなるかみセル錠  
48円...水をきれいにすることのできる薬  
79円...子供2人分の鉛筆とノート  
237円...安全な器材の注射器50本

このファミリーボックスは、家庭用募金箱です。私達にもできる支援活動として、二千人募金しました。多くの人の役に立つとうれしです。

## UNHCR 国連難民高等弁務官事務所

私達はあたらしくのようになりに通っているのに、難民の子供達が学校に行けないのは、かわいそうです。この問題が解決できるように願っています。

2016年 UNHCR 寄付金収入  
企業 10%  
学校団体 3%  
個人 87%  
合計金額 28億4603万円

## 私達にできること

- 世界の現状を知る・伝える
- 世界の現状を知り、伝えることで、より多くのの人に世界の問題を理解してもらえ。
- 募金活動に参加する
- 1人でも多くの人を救うことができる
- 物資を支援する
- ユニクロなどに衣類のリサイクルボックスが設置されている



取材に行きました  
ユニクロ マーケットプレイ 桐生店

私達は世界の難民の現状を知り、服を回収し海外に送りました。必要としている人々をUNHCRと共に支援しているユニクロを取材しました。

服を寄付  
店長さんにインタビュー

A 十六の国と地域で五〇三三万着を回収し、アフリカをメインに六二の国と地域に二〇三三万着を送りました。  
B いろんな服が喜ばれているのですか。  
C 難民の半数が子供であるため子供服のニーズが高いです。防寒着として



編集後記  
読者が国連のことや、世界の現状を知り、世界が少しでもよくなりたくて欲しいという願いを込めて、この新聞を書きました。高堂花恋新聞を作り、世界の現状を知るとともに、国連の大切な役割を知り、私たちが世界に貢献できるように生きていきたいと思います。松倉結

平和の象徴  
オリイの花言葉は「平和」です。そのため、国連のロゴにオリイが使用されています。

コートやジャケットなども喜ばれています。その他難民雇用や自立支援を行っています。